

2021年（令和三年）

9月17日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

9/2～9/8のNYMEX・WTI先物市場は、68.35～69.99ドルの範囲で推移した。

9月9日は、中国における戦略備蓄放出報道、コロナ変異種の感染拡大による経済減速の懸念、米国株価の低下など、弱気要因により大きく値下がりした。この日発表の米国石油在庫報告は、原油の小幅減少、製品の大幅な減少で、まちまちの結果だったと見られる。ハリケーン「アイダ」からの復旧の遅延が下値を支えた。10月限の終値は前日比1.16ドル安の68.14ドル。

週末10日は、ハリケーン「アイダ」の影響で、メキシコ湾の原油生産施設の操業再開が滞っており、先行き石油需給の引き締め観測から反発した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比7基増の401基。10月限の終値は前日比1.58ドル高の69.72ドル。

週明け13日は、ハリケーン「アイダ」の影響が残る中、新たなハリケーン「ニコラス」が発生し、メキシコ湾一帯の石油施設への影響が懸念され、続伸、約1か月ぶりで70ドル台を回復した。10月限の終値は前日比0.73ドル高の70.45ドル。

14日は、売り買いが交錯し、終値はほぼ横ばいだった。ハリケーン「ニコラス」は熱帯低気圧に弱まったものの、「アイダ」の影響が深刻で、原油生産施設の多くで生産が止まっている。また、この日発表の国際エネルギー機関(IEA)の石油市場報告は、直近3か月需要は減退したが、10月には回復するとした。10月限の終値は前日比0.01ドル高の70.46ドル。

15日は、ハリケーンの影響による供給再開の遅れに加え、

米国エネルギー情報局の在庫週報で、原油・製品ともに、取り崩されたことから、需給のタイト感が意識され、大幅に続伸した。10月限の終値は前日比2.15ドル高の72.16ドル。

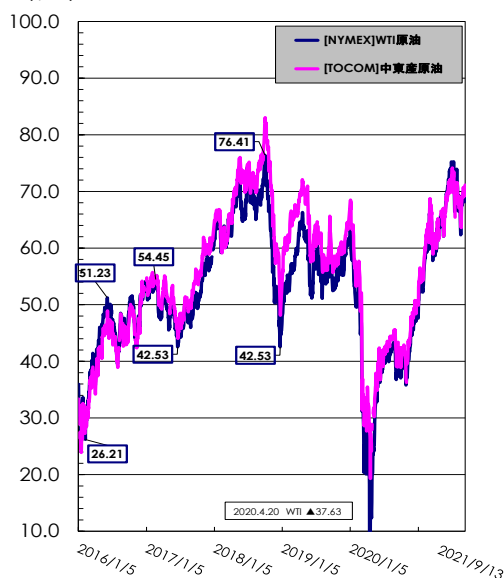
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は、9月2日～8日の間、69.60～71.30ドルの範囲で推移した。9月9日70.70ドル、10日70.20ドル、13日71.70ドル、14日72.20ドル、15日72.10ドルで推移した。

為替は9月2日～8日の間109.78～110.27円の範囲で推移した。9月9日110.23円、10日109.78円、13日109.98円、14日110.05円、15日109.65円で推移した。

そのような中で、9月13日時点の小売価格は、ガソリンが前週(9月6日)比0.2円の値上がり、軽油も同0.2円の値上がり、灯油は同1円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。この週(9月第2週)の原油コストはほぼ横ばいで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比据え置きとなった模様。

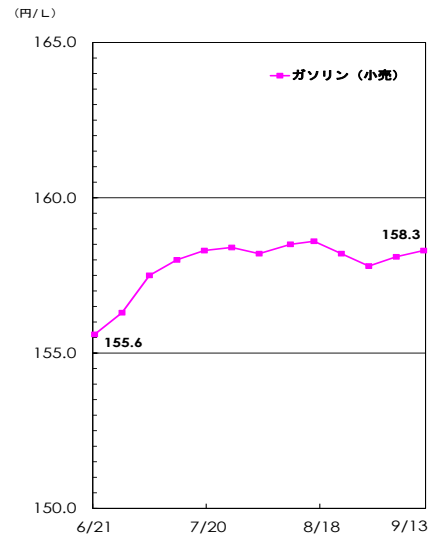
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/5 ~ 9/11	2,946	▼ -54	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.5	▼ -1.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/11	10,669	▲ 311	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/13	71.15	▲ 2.12	▲ 31.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/13	70.45	▲ 2.10	▲ 33.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	74.79	▲ 1.83	▲ 31.34
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	51,599	▲ 1,202	▲ 22,597
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.68	▲ 0.15	▼ -3.57
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/13	110.98	▼ -0.15	▼ -3.80

(\$/b)



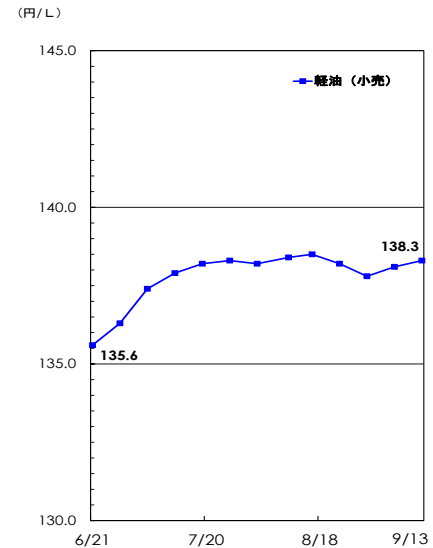
		(単位：千kl、円/%)			
ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/5 ~ 9/11	848 ▲ 37	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	705 ▼ -32	▼ -	
	輸出	"	185 ▲ 153	▲ -	
	在庫	9/11	1,578 ▼ -42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/7 ~ 9/13	66.7 ▲ 0.4	▲ 23.0	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/7 ~ 9/13	64.7 ▲ 0.7	▲ 26.4	
	(TOCOM/中部)	9/13	65.7 ▲ 1.3	▲ 24.7	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/13	158.3 ▲ 0.2	▲ 22.5	

※業転、先物価格は税抜き価格

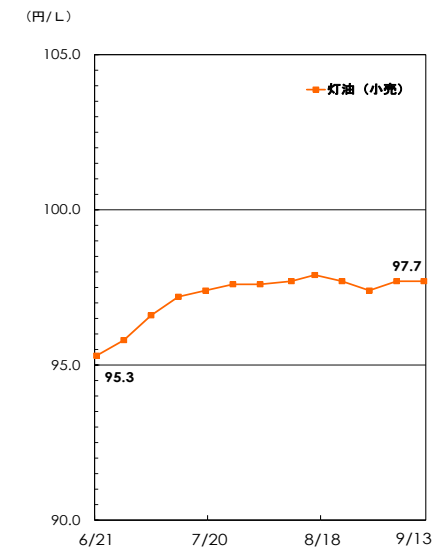


		(単位：千kl、円/%)			
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/5 ~ 9/11	776 ▼ -20	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	578 ▼ -175	▼ -	
	輸出	"	306 ▲ 57	▲ -	
	在庫	9/11	1,477 ▼ -106	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/7 ~ 9/13	67.9 ▲ 0.5	▲ 20.7	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/7 ~ 9/13	67.0 ▲ 0.9	▲ 20.7	
	(TOCOM/中部)	9/13	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/13	138.3 ▲ 0.2	▲ 22.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



		(単位：千kl、円/%)			
灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/5 ~ 9/11	161 ▼ -15	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	53 ▼ -90	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -48	▼ -	
	在庫	9/11	2,246 ▲ 108	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/7 ~ 9/13	67.4 ▲ 0.3	▲ 20.8	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/7 ~ 9/13	63.9 ▲ 1.7	▲ 23.5	
	(TOCOM/中部)	9/13	65.6 ▼ -0.3	▲ 23.6	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/13	97.7 ▲ 0.0	▲ 16.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月15日のNYMEXのWTI先物原油は、需給のひっ迫感から、大幅に続伸した。ハリケーン「ニコラス」のテキサス州上陸で、「アイダ」による復旧の遅れが一段と意識された。さらに、米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計は、原油が640万バレル減と市場予想(350万バレル減)を大きく上回る取り崩しで、ガソリン・中間留分ともに取り崩しであったことから、先行きの石油需給のひっ迫観測が高まった。10月限の終値は前日比2.15ドル高の72.61ドル、11月限の終値は2.10ドル高の72.33ドル。

EIAによると、9月13日時点のガソリンの小売価格は、前週

比1.1セント値下がりの1ガロン3.165ドル(92.7円/ℓ)、ディーゼルは同0.1セント値下がりの3.372ドル(98.7円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、ディーゼルは3週ぶりの値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年9月5日～9月11日に休止したトッパ能力は18.1万バレル/日で、前週に対して0.7万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は294.6万klと、前週に比べ5.4万kl減少。前年に対しては36.5万klの増加。トッパ稼働率は76.5%と前週に対して1.5ポイントの減少、前年に対しては10.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.6%増、ジェット/25.9%増、灯油/8.4%減、軽油/2.5%減、A重油/4.0%減、C重油/0.7%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は30.6万kl(前週比5.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は70.5万kl(対前週4.3%減)と2週連続で減少した。ジェット5.3万kl(対前週9.9%増)、灯油5.3万kl(対前週62.9%減)、軽油57.8万kl(対前週23.3%減)、A重油16.0万kl(対前週9.7%減)、C重油16.8万kl(対前週9.4%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (9/5 ~ 9/11)	前週 (8/29 ~ 9/4)	前週比
ガソリン	705	737	▼ -32 (-4%)
ジェット燃料	53	48	▲ 5 (10%)
灯油	53	143	▼ -90 (-63%)
軽油	578	753	▼ -175 (-23%)
A重油	160	177	▼ -17 (-10%)
C重油	168	185	▼ -17 (-9%)
合 計	1,717	2,043	▼ -326 (-16%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月11日時点の在庫は、ガソリン、軽油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは157.8万kl、前週差4.2万kl減。前年に対しては18.0万kl少ない。

灯油は224.6万kl、前週差10.8万kl増。前年に対しては40.4万kl少ない。

軽油は147.7万kl、前週差10.6万kl減。前年に対しては11.3万kl少ない。

A重油は75.4万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては3.1万kl多い。

C重油は196.8万kl、前週差4.9万kl増。前年に対しては7.5万kl多い。

(単位: 千KL)

	今週 (9/11)	前週 (9/4)	前週比
ガソリン	1,578	1,620	▼ -42 (-3%)
ジェット燃料	843	753	▲ 90 (12%)
灯油	2,246	2,138	▲ 108 (5%)
軽油	1,477	1,583	▼ -106 (-7%)
A重油	754	745	▲ 9 (1%)
C重油	1,968	1,919	▲ 49 (3%)
合 計	8,866	8,758	▲ 108 (1.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月7日～13日の指標原油価格は前週(8月31日～9月6日)比でほぼ横ばいで、為替レートもほぼ横ばいで、円建ての原油コストはほぼ横ばいと見られる。

次週(9/16～9/22)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比据え置きとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月7日～13日の製品スポット市況は、8月31日～9月6日平均と比べ、全油種の全取引で値上がりした。

直近週(9/7～9/13)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/31～9/6)比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。同期間(9/7～9/13)において、ガソリンは120円台でほぼ横ばい、灯油は67円台でほぼ横ばい、軽油は67～68円台でほぼ横ばいで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/7～9/13)に、前週(8/31～9/6)比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(9/7～9/13)に、ガソリンは121円台でほぼ横ばい、灯油は63～64円台で出入り後横ばい、軽油は69円台でわずかに値上がり後わずかな下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。先物価格は、同期間(9/7～9/13)に、ガソリン117～119円台で大きく値上がり、灯油63～65円台で横ばい後大きく値上がり、軽油66～67円台で値上がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	陸上ローリー 4地区平均]	今週 (9/7～9/13)	前週 (8/31～9/6)	前週比
	レギュラー	66.7	66.3	▲ 0.4
	灯油	67.4	67.1	▲ 0.3
	軽油	67.9	67.4	▲ 0.5

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	期近物/終値 [平均]	今週 (9/7～9/13)	前週 (8/31～9/6)	前週比
	レギュラー	64.7	64.0	▲ 0.7
	灯油	63.9	62.2	▲ 1.7
	軽油	67.0	66.1	▲ 0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/7～9/13実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.4	▲ 0.7	▲ 0.5	
灯油	▲ 0.3	▲ 1.7	▲ 1.0	
軽油	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 0.7	
A重油	▲ 0.9			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(9月6日)比0.2円高の158.3円、軽油も同0.2円高の138.3円、灯油は18ℓペースで同1円高の1,759円(1ℓペースでは同横ばいの97.7円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続ぶりの値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは26都道府県、横ばいは8県、値下がり13県だった。全国最安値は152.4円の埼玉県(同0.8円高)、その次は、152.6円の宮城県(同0.3円高)、他方、最高値は168.5円の長崎県(同横ばい)だった。最も値上がりしたのは同1.5円高の神奈川県

(157.0円)で、横ばいは山形県など8県、最も値下がりしたのは同2.0円安の滋賀県(156.9円)だった。

今週(9月7日～13日)は、指標原油価格はほぼ横ばいで、為替レートもほぼ横ばいで、円建ての原油コストはほぼ横ばいであったと見られる。次週(9月16日～22日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比据え置きとなった模様。ただ、次回調査時(9月21日)のガソリンの小売価格は、卸価格値上げに伴う未転嫁分が残っていることから、小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格	[週動向]	今週 (9/13)	前週 (9/6)	前週比	直近高値	
	レギュラー	158.3	158.1	▲ 0.2	08/8/4	185.1
	灯油	97.7	97.7	→ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	138.3	138.1	▲ 0.2	08/8/4	167.4

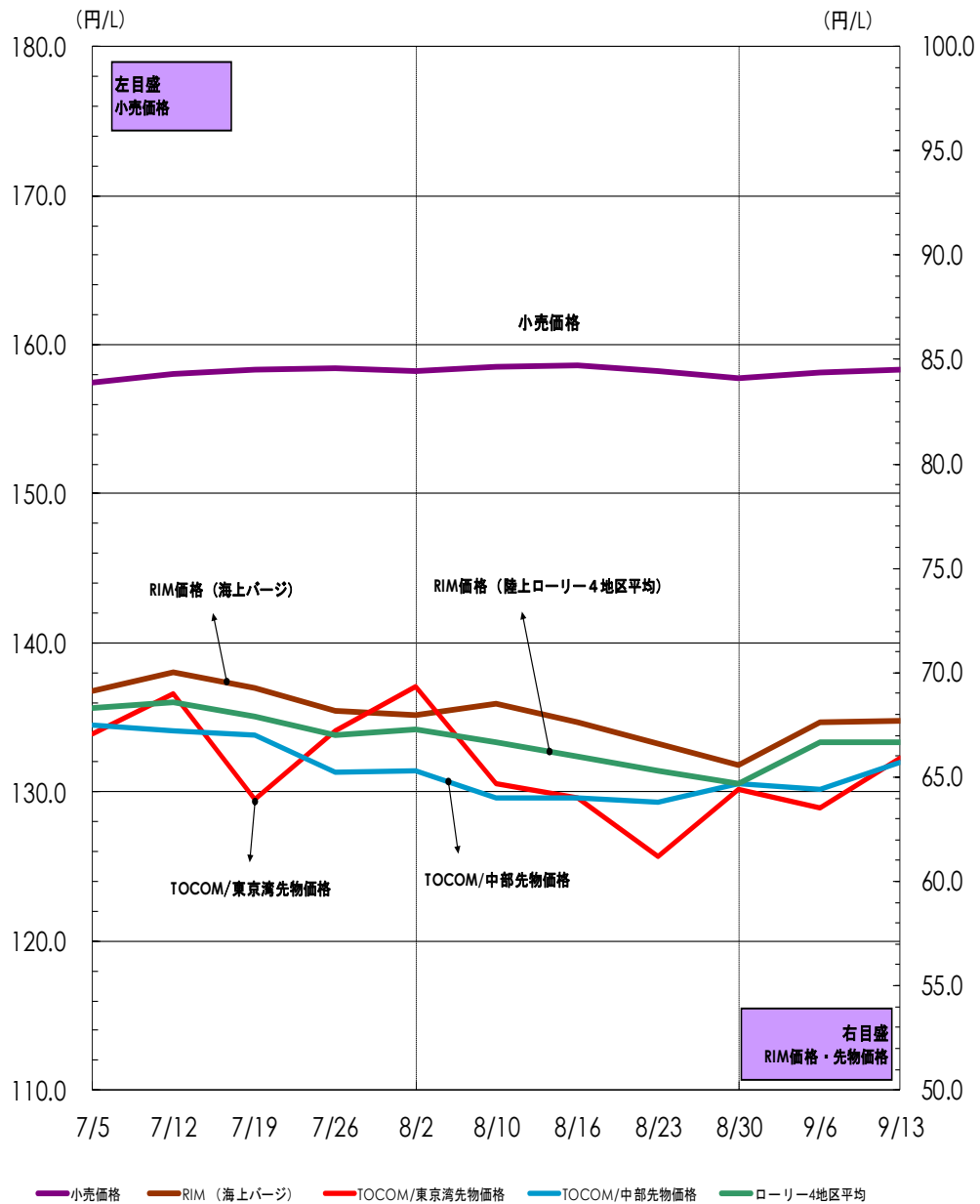
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/7/5 ~ 2021/9/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第24号)の公表は、祝日等の都合により9/24(金)中となります。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在)は、8月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。